

innovation

地方協奏による挑戦する
若手人材の養成計画

Dの世界

博士課程後期

物質との対話に降り注ぐ
二筋の光明。

前田 俊樹 広島大学 大学院理学研究科化学専攻 量子化学研究グループ

ようこそ、

両生類のノアの方舟へ。

ハサン・マムドウル／掛橋 竜祐／菅原 弘貴／小巻 翔平
広島大学 大学院理学研究科 附属両生類研究施設 多様化機構研究部門 住田研究室

ナノオーダーの世界で、

「最先端」が交差する。

堺 真通 広島大学 ナノデバイス・バイオ融合科学研究所

博士課程後期

Dの世界

4 物質との対話に
降り注ぐ二筋の光明。

前田 俊樹さん
広島大学大学院理学研究科化学専攻
量子化学研究グループ

8 ようこそ、

両生類のノアの方舟へ。

ハサン・ムドウルさん／掛橋 竜祐さん
菅原 弘貴さん／小巻 翔平さん
広島大学大学院理学研究科附属両生類研究施設
多様化機構研究部門 住田研究室

12 ナノオーダーの世界で、
「最先端」が交差する。

堺 真通さん
広島大学
ナノデバイス・バイオ融合科学研究所
TA/RA/PAでナンだ？

18 やっぱりDじゃない？

20 Dこそ留学へ
Dの活動をサポートします
若手研究人材養成センター

26 広島大学の学生サポート

26 キャリアセンター

27 学生プラザ

28 情報メディア教育研究センター

29 学生情報の森「もみじ」

30 奨学金

31 授業料免除

32 学割

33 保険

34 広大生の進路・就職に関する
アンケートの結果

物質との 対話に 降り注ぐ 二筋の 光明。

前田俊樹さん 若手研究人材養成センターの一員として、イノベーション研究コースに参加。現在は薄膜の物性評価に有効な和周波 (SFG) について研究中。

物質が物語る「光」のドラマ

「ちよつとしたイルミネーションを見ている気分です。たった一人で見ているのはもったいないですね」そう語る前田俊樹さんは、量子化学研究グループで博士号を取得した若手研究人材養成センターの研究員だ。和周波（SFG）を使って、薄膜の物性や有機分子の並び方を調べる実験に携わっている。

実験はまず可視光と赤外光の2つの光から成る和周波（SFG）を薄



膜に入射する。すると、薄膜は独特の光を放ち、そこから情報を読み取ることができる。毎日、装置に占領された実験室の中で、前田さんは薄膜が発する光を見ているのだが、その光がなかなか美しいらしいのだ。

「光の波形から情報を読み取っているのですが、実験はもの言わぬ物質との対話なのかなと思う時があります。そう思うと、不思議と光もドラマティックに見えてくるんですよ」と前田さんは笑顔で語る。

大学にしながら人脈を開拓

前田さんが物性を調べる薄膜は、コンピュータで使われる半導体などに欠かせないものである。つまり、彼が手掛ける研究は、情報工学にも関連する融合領域研究に及んでいる。も

ちろん、こうした分野を研究対象に

選んだのは、将来のビジョンがあつてのことだ。研究者として社会で活躍するには、研究から一歩踏み出して、産業界のニーズに少しでも近い場所での研究を行うのがベストだと思ったからである。大学が推進する若手研究人材養成センターに研究員として参加したのも、同じ理由からだ。

若手研究人材養成センターでは、中四国地方の企業や研究機関、学会が連携して、新分野に挑戦する若手研究者をサポートしている。前田さんもセンターのプログラムを通じて、ネットワークづくりを行っているところだ。彼が所属するイノベーション研究コースでは、3カ月間の企業派遣プログラムをはじめ、直接、企業から最新の研究開発動向や人材活用を学ぶセミナーなども開催されているという。



3カ月間の企業体験へ

前田さんは、若手研究人材養成センターが提供する3カ月間の企業派遣プログラムに参加した。

このインターンシップでは、実習に関わる旅費等をはじめ、給与も支払われるという。前田さんも「給与までもらうのだから、単なる体験で終わらせては駄目だ。短い期間だけど、少しでも貢献しよう」という気持ちで、受入先となる日本製鋼所・横浜製作所に臨んだ。現地では試験的に運用しているプラズマCVD装置を用いた実習に参加したそうだが、知識や技術はもとより、職場での聞き方・教わり方といったコミュニケーションの取り方を体験できたのが、何よりの成果だったという。



ようこそ、 両生類の ノアの方舟へ。



貴重な天然記念物の生息地!?

まず、案内されたのは自慢の飼育施設。一番に目に飛び込んできたのは、日本一美しいといわれるイシカワガエルだ。沖縄および奄美大島に棲息するカエルだが、環境破壊や乱獲が原因で、環境省のレッドリストに名を連ねる絶滅危惧種である。研究室では人工繁殖を試み、現在は施設で生まれた第2世代が2年齢を迎えている。教授をはじめ、学生たちの努力で、絶滅危惧種のはずなのに、この施設内には1000匹ほどのイシカワガエルが元気に暮らしていると、いうから驚きだ。

イシカワガエル



「本来の生息地より、すでに数が多いかもれません。将来はトキのよ



左からハサン マハムドゥルさん、掛橋 竜祐さん、菅原 弘貴さん、小巻 翔平さん。研究室では8年前から保全を行っており、ドクターの学生もそれぞれ飼育担当を決めて、絶滅危惧種の世話をしている。餌のコオロギも学生たちの手で育てているそうだ。



うに、ここからリリースすることになるかもしれませんが。この施設は、いわば両生類のノアの方舟ですね」そう言って笑う菅原さんと小巻さんは、春から博士課程後期に進む学生だ。菅原さんは高知大、小巻さんは信州大出身。他の学生もなぜか広島大学以外からの進学者が多い。「全国でも珍しい施設ですから、自然と両生類好きが集まるんです」そう語る二人。どうやらオンラインワンの研究を求めて、日本中から学生が集まってくるらしい。最近では海外からの留学生も増えているという。

の記載も行っている。

ちなみに発見された新種は自分で学名を付けることができる。例えばコメットハンターが宇宙に自分の名前を残すように、分類学者も図鑑に名前を残すチャンスがあるのだ。

昨年、インドネシアの留学生が記載した新種には、「カワムラ」の文字を刻む名前が付けられたが、これは研究施設の創設者・川村智治郎教授にちなんだもの。学生たちの先達に対するリスペクトぶりがうかがえる。

150年ぶりに新種を発見

博士課程後期の学生ハサンさんはバングラデシュからの留学生だ。食用としてカエルを輸出してきたバングラデシュでは、いま乱獲が大きな問題となっている。そんな中、ハサンさんは、



透明ガエル“スケルピオン”



研究室の人気者、スケルピオン研究室には、しばしばマスコミにも取り上げられる人気者がいる。同研究室の住田教授が開発した、内臓が透けて見えるカエル、スケルピオンだ。スケルピオンは、皮膚の色素を欠く2種類のミュータントを掛け合わせて作製したカエルで、解剖せず観察できる実験動物として、その利用価値に大きな期待が寄せられている。

他にもここでは、最新の分子生物学的手法を駆使して、種の多様性を解明するとともに、いくつかの新種

保全活動にも力を入れる当研究施設にやって来た。絶滅危惧種の保全に携わるかたわら、多様性の解明にも取り組む彼は、同じ分類群では150年ぶりという、学術的に非常に価値のある新種を発見した。いずれ本国に帰れば、この分野のパイオニアになることは間違いなさだが、この発見は、日本での一番うれしかった出来事だという。

この施設の特徴は飼育ができることだが、その魅力について、春からドクターを目指す掛橋さんはこう語る。

「分子生物学の勉強ならどこでもできるけど、ここは貴重な絶滅危惧種を自分で育てられる。自分たちがやらなくちゃ、という使命感が生まれます」研究者としての使命感も、掛橋さんの中でしっかり育っている。

ナノオーダーの 世界で、 「最先端」が 交差する。

堺真通さん ナノデバイス・バイオ融合研究所で研究に取り組んでいる。今春、産業総合研究所・関西センターへ着任予定。

微細な世界の大きな技術

そもそも、どうしてナノデバイスとバイオが融合するのだろうか？

おそらく世の中の大半の人は、両者は全く異なる分野の研究と認識していることだろう。しかし実際は違う。『最先端』といわれるテクノロジーの世界では、両者はお互いの垣根を軽々と超えて、見事にクロスオーバーする。半導体の開発などで培われてきた微細な技術、いわゆるナノテクノロジーは、今や生物や医学の分野でも応用されている。

たとえば当研究所内においても、家庭で使えるがんセンサーや骨治癒促進効果のあるインプラント、食品中の微生物を感知する微生物カウンタ―などの開発に使われるなど、意外な場所で意外な働きを見せている。

ナノとはもとともラテン語で、「小人」を意味するそうだが、どうやらテクノロジーの小人は、産業界をドラマティックに変える、とてつもなく大きな力を秘めているらしい。

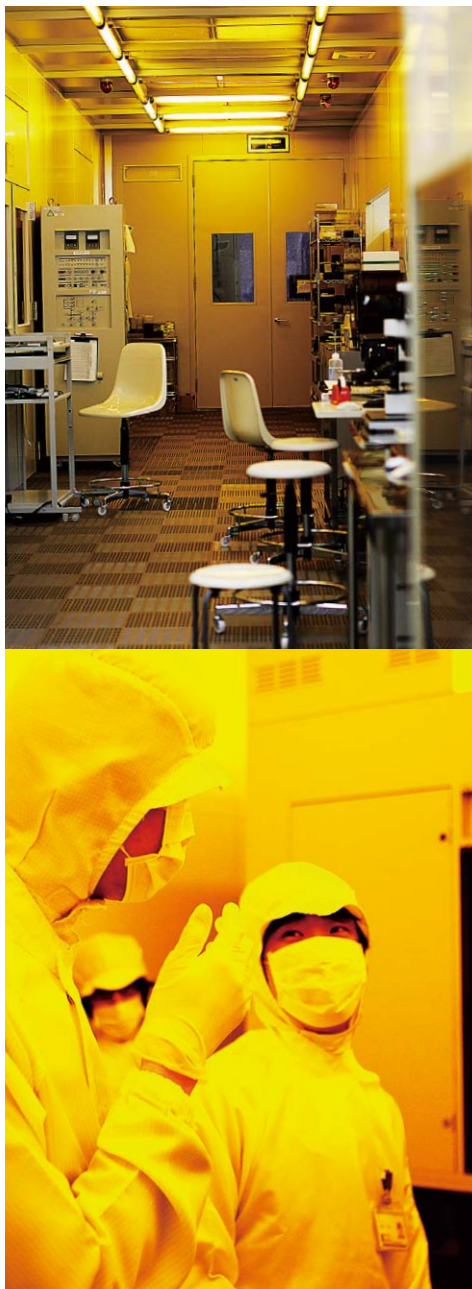
あらゆる「知」の融合領域

クリーンルーム内で微細加工の技術に取り組む博士（理学）を取得した

研究員、堺真通さんは、学部や大学院では物理化学を専門としてきた。分野としては、それまでとは違うことをやっている。

「最初はとまどいもありましたが、分からないことも丁寧に指導していただきましたので、すぐに慣れました。今では視野が広がった」と、自分を感じるくらいです。少しは成長できたかなと思っています」

ゆくゆくは化学系の企業で働きたいという夢を持つ堺さんは、少しでも企業よりの場所にいたいという思いから、当研究所で学ぶことを願い出たのである。ここには他大学や企業からの共同研究・受託研究も数多く行われ、テクノロジーが今どこに向かっているのか、あるいはイノベーションの現場がいかなるものかを肌で感じる事ができるからだ。



春からは産業技術総合研究所（略称・産総研）の関西センターに研究員として着任するが、より企業に近い場所で活動することになり、期待に胸を膨らましているという。

大学と産業界をつなぐ場所

堺さんが携わる超微細加工の研究は、文科省が推進するナノテクノロジー

ジー・ネットワークと呼ばれるプロジェクトの一つである。

全国13の拠点で、産学官が高度な施設・設備を共用することで、イノベーションを創出しようというものが、堺さんは山口大学との連携で、『シリコンナノ加工と高品質真空利用に関する支援』を行っている。

「研究を通じて、いろんな人とのつながりを築けるのがとても新鮮です」

そう堺さんが語るように、研究所には、毎日さまざまな人が訪れる。中国、アメリカ、オランダ、インドネシア、バングラデシュといった国の大学関係者をはじめ、産業界からは情報通信、環境、エネルギー、医療など、多彩な分野からの来訪者がいる。研究所は、先端技術だけでなく、ネットワークも交差する刺激的なスポットになっているようだ。

TA/RA/PA てなんだ?



TA 「ティーチング・アシスタント」

ティーチング・アシスタントについて、文科省は、「優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部・学生等に対するチュータリング（助言）や実験、演習等の教育補助業務を行わせ、大学教育の充実と大学院学生のトレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当の支給により、大学院学生の処遇の改善の一助とすることを目的とした制度」と説明している。

実際にTAとして、化学科で教育補助業務に従事する院生たちに話を聞くと、業務に従事するのは一週間に3回くらい。具体的には、試薬の

補給や廃液の処理といった実験の準備・後片付けをはじめ、実験中に事故がないように、指導するのもTAの役目となっている。しかし大切なのは、こうした補助業務そのものだけではなく、むしろTA制度を通しての教育効果である。学部生にとって、立場的に身近なTAは気軽に質問できる存在であり、習熟度の向上に大きく貢献している。TA自身も、教えることにより理解をさらに深め、自己の成長へつながっていきえるのだ。

RA 「リサーチ・アシスタント」

研究（リサーチ）に特化した補助業務に従事する。

PA 「フエニックス・アシスタント」

広島大学の大学運営支援業務（図書館窓口や資料整理業務など）に従事する。

詳細は、キャリアセンターホームページで確認できる。
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/kyaria/>
 キャリアセンター→アルバイト→大学運営支援業務

やっぱりDじゃない？

博士課程後期

修士から、その先の世界へ。

広島大学大学院の各研究科では、高度専門職業人の養成を目的とした実践的な教育研究を行っている。また各研究独自の科目に加え、研究科の枠を超えて自身の専門に限らず幅広い見識を得られるよう、大学院共通授業科目を提供している。

さらに博士課程後期の学生と若手博士研究員を支援する組織として、広島大学は若手研究人材養成センターを設置。各種実践プログラムを展開し、新分野に挑戦する活力のある人材を養成している。

博士課程後期の学生には、さまざまな手厚い支援も用意されている。修士の先の世界にも、ぜひチャレンジしてもらいたい。

平成24年度学位授与式

7月17日(火)・・・学位記(博士)授与式

9月25日(火)・・・秋季学位記授与式

1月15日(火)・・・学位記(博士)授与式

3月23日(土)・・・学位記授与式

博士課程後期

Dこそ留学へ

Dにこそ留学を奨めたい

「Dの学生にこそ留学を奨めたい。そう考え、我々も最初から、海外を視野に入れた指導をしています」そう語るのは、『組織的な若手研究者等海外派遣プログラム』の主担当研究者である山本陽介教授だ。



大学院理学研究科 山本陽介教授
「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム(理工農系)」を通じて、国際的視野を持つ研究者の育成に尽力している。

将来、博士課程後期の学生が、研究者として自立した活躍をしてくれるためには、国内だけでなく、海外へも視野を向ける必要がある。実際のところ、国内のアカデミック・ポジションの数は限られたものである。学生自身が高い国際競争力を身に付け、海外の大学や研究機関に自らをアピールすることは、キャリア獲得に向けて大変有効な手段である。

そのためには、まず博士課程に在籍中から、海外体験を積んだり、海外におけるネットワーク構築を行っておくことが重要だ。そこで、組織的な若手研究者等海外派遣プログラムである。同プログラムでは、42歳以下の

講師、助教、ポスドクに加え、大学院生も海外派遣している。

広島大学における留学プログラム

山本教授が担当する同プログラムでは、大学間・部局間協定による海外拠点・ネットワーク(世界35カ国、127機関)を活用し、若手研究者たちに共同研究および学会発表の機会を提供している。ドクターコースの学生の場合、研究は1〜3カ月の短期派遣、国際学会での発表は1、2週間程度とされている。海外での共同研究への参画を通じて、多角的で国際的視野を持つ人材の育成とサステナブル社会の実現を図るものだ。これまでに158人の若手研究者・大学院生を派遣しており、う

ち大学院生は2010年度で47人、2011年度で50人となっている。選考に当たっては、研究科で行う1次審査と全学の選考委員会で行う2次審査があるが、大学院生の採用率は約7割(約3分の2)となっている。

募集に関する情報は、大学ホームページ、若手研究人材養成センターなどで入手でき、説明会も開催されている。興味のある人はぜひ一度チェックしてほしい。



大学院理学研究科化学専攻
有機典型元素化学研究グループ
福園 真一さん(左側)

自身の研究を仕上げるため、2010年9月〜11月までの2カ月間、ドイツ・ベルリンにあるベルリン自由大学のSeppelt研究グループに参加。大きな刺激を受けて帰国する。

本格留学

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム(医療系、理工農系、人社会)

若手研究者(大学院生および42歳以下のポスドク、助手、助教、講師など。医療系のみ学部生も可)を対象に、海外の研究機関や研究対象地域において、研究および学会発表等を行う機会を組織的に支援する。

ホームページ
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateijousaikagahaken/>

HUSA・USAC交換留学プログラム

交換留学生として、協定大学(24カ国67大学)に半年もしくは1年間留学できるプログラム。取得した単位は広大の単位として認定できる。USACプログラムは、ネバダ大学リノ校がとりまとめるコンソーシアム型の言語・文化中心のプログラム。

ホームページ
http://www.hiroshima-u.ac.jp/husa_program/

HUSAショートプログラム

外国語学習や文化体験を中心とした、夏休み、春休みに行く短期間のプログラム。協定大学からの通知があれば、その都度実施する。定期的に募集されるわけではない。

ホームページ
http://www.hiroshima-u.ac.jp/husa_program/

INUダブルディグリープログラム
INU(国際大学ネットワーク)の加盟大学と共同で実施しているプログラム。「地球市民と平和」に関する分野で、広大および海外の大学から2単位取得できる。国際的な機関での活躍を目指す学生に適している。

ホームページ
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/kokusai/degreeprogram/index.html>

海外インターンシップ
A—A海外インターンシッププログラム

教育開発のためのアフリカ・アジア大学間対話ネットワーク(A—A Dialogue)による海外インターンシップ。発展途上国の現状・国際社会が抱える課題・国際協力の現場への理解を深めることを目的とする。

ホームページ
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/cice/index-j.html>

Gecho 海外インターンシッププログラム

国際社会で活躍する実践的研究者と高度専門職業人の育成のため、アジア・アフリカ地域で実施される大学院特別教育プログラム。事前・事後研修として、語学、ディベート、リスク管理等の演習が行われる。

ホームページ
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/gecho/>

博士課程後期

Dの活動をサポートします

若手研究人材養成センター

「高度な専門知識を有し、最も高い学位を持っているのだから、社会につながる道筋もしつかりしたものがあるべきではないでしょうか。博士人材にこそ、キャリア開発のための十分なサポートが必要です」

若手研究人材養成センター設立の趣旨について、副センター長である相田教授はこう語る。

現在の日本においては、学部生、

修士まではつながっていた社会への道筋が、博士になると一変するようになっている。博士人材と社会の接点は少なく、分かっていくのが現状だ。博士人材が自らのキャリアパスの多様化を図りながら、社会と積極的に関わることに、重要な意味があると相田教授はいう。

また、高い専門知識を持ちながら、アウトプットする機会や場所が限られているとすれば、社会にとっても大きな損失といえるだろう。



大学院理学研究科 相田美砂子教授・若手研究人材養成センターの副センター長として、社会と博士人材をつなぐ活動を展開している。

―充実した養成プログラム

実際の養成プログラムとしては、博士人材が社会で活躍するための、基礎知識習得を中心とした「実務コアコース」と、社会に踏み出すまでのキッカケづくりを支援する「イノベーションコース」の二つがある。

プログラムの多くは、企業の研究開発者・人事担当者の意見も取り入れ、学内の他センターとも協力しながら開発している。2011年度は大学院共通授業科目や五研究科共通講義・共同セミナーとして、21科目と2セミナーを開催した。

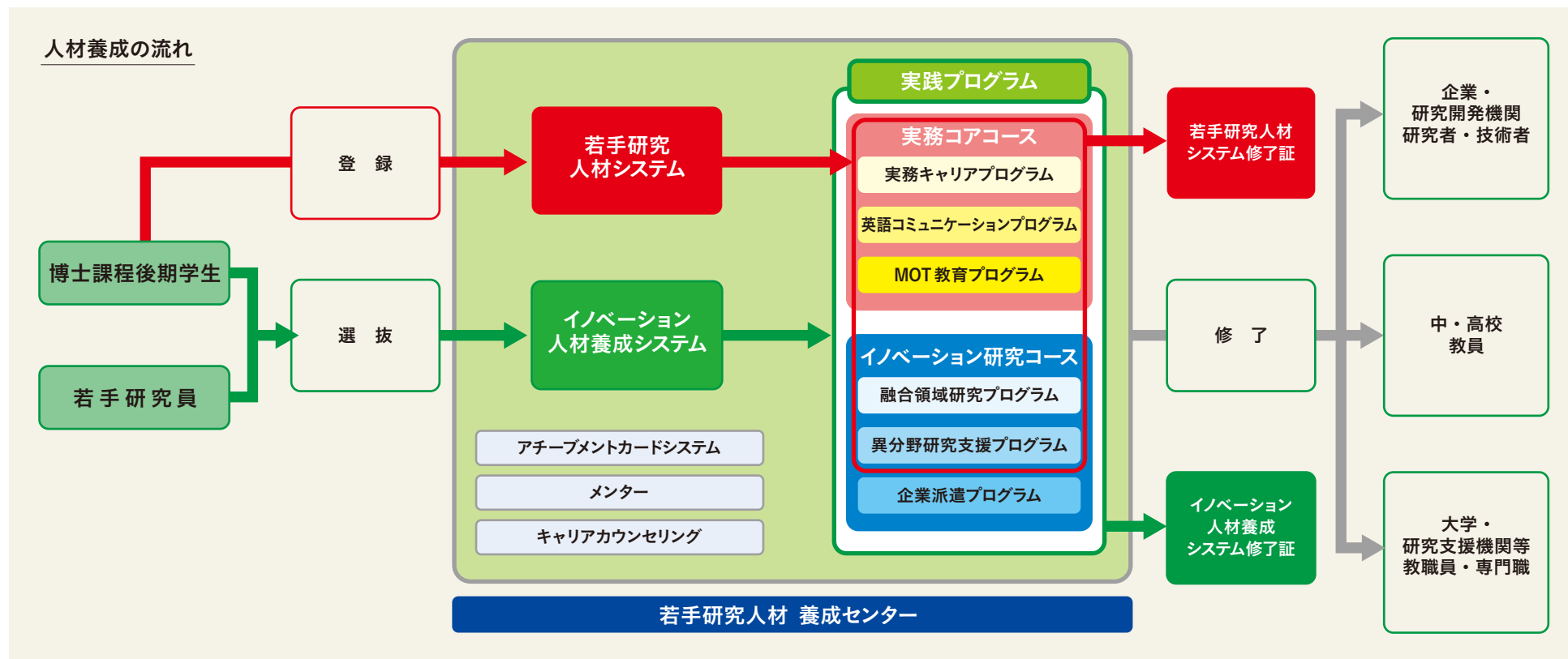
―長期インターンシップによるキャリア開発

前述の座学プログラムの他に、実践プログラムとして、民間企業にお

そうした事態を受けて、広島大学では、2010年に「若手研究人材養成センター」をスタートさせ、博士人材のキャリア開発支援に乗り出している。

センターでは独自の養成システムを構築し、博士人材と社会をつなぐ、各種の実践的プログラムを展開しており、中でも中国・四国地方の企業との密接な連携により、博士人材のネットワーク構築が可能となったのは特筆すべきポイントである。





る長期インターンシップも実施している。

センターでは毎春・秋に「イノベーション人材養成システム」に参加する博士人材を公募している。選拔された人材は、企業の研究開発の現場で3カ月以上の長期インターンシップ参加と、それに合わせて外部講師を招いてのビジネス英語研修やビジネスマナー講習等を受講できる。

インターンシップに参加する際は、面接や履歴書の作成指導など、きめ細かいサポートが提供される他、インターンシップ中の給与や係る旅費なども、若手研究人材養成センターから支給される。

―キャリアカウンセリングの充実

さらにセンターでは、若手研究者個別の問題に対応するため、随時

キャリアカウンセリングを実施している（1年間に延べ800人利用）。

企業の研究開発・人事担当者から生の声を聞く

その他、センターでは、企業の声に直接触れる場として、「企業人材セミナー」を開催している。セミナーでは、企業の研究開発担当者や人事担当者を学内に招き、最近の研究開発動向や研究開発者の詳しい業務内容、また、企業の求める人材像などを、採用側の視点から話していただいている。

詳細はホームページ、もみじからの案内メール、各研究科の選考事務室の掲示板などで案内している。ホームページ

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateyousei/>

広島大学の学生サポート

キャリアセンター

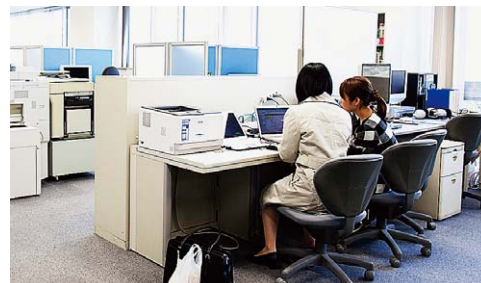
広島大学は、学生の就職活動を全学的な立場から支援するために、国立大学で初の施設として、「学生就職センター」を平成10年5月1日に設立した。そして、入学時から将来に向けたキャリアデザインを支援し、学生への就職支援を拡充するために、平成16年4月1日の大学法人化を機に「キャリアセンター」へ改組・拡充した。

キャリアセンターでは、卒業（修了）の前年次生からの就活支援プログラムとして、就職ガイダンス、セミ

ナーの開催、キャリアセンター相談員（民間企業の採用担当経験者に委嘱）・センター教職員による進路・就職相談を実施している。※年度によって、開催日等は異なるため、ホームページで確認。

ホームページ
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/kyaria/>

また学生向けポータルサイト「もみじ」（本誌29ページ）上での求人票の公開や、情報の収集方法を掲載した、「進路・就職システム利用ガイド」を博士課程前期1年次生へ配布している。



学生プラザ

学生プラザは、学生同士が交流できる「学生交流の場」であり、学生支援窓口を1カ所に集約し「一体的な学生支援」を行っている施設である。

学生が自由に利用できるフリースペースや多目的室などがあり、学生生活のサポート、進路・就職のサポート、留学生へのサポートといった学生支援の窓口が、同施設内に集まっている。さらに学生プラザ内では、PA（フェニックス・アシスタント／本誌16ページ）、学生の相談に乗るピア・サポーター、障害学生などの修学を支援するアクセシビリティサポーターなどとして学生が活



動しており、学生による学生支援が充実している。学生たちからの提案や意見が、大学運営に生かされている。

応じて担当部署へ案内している。1階にはフリースペースもあり、打ち合わせや勉強などに、学生たちが自由に利用している。テーブルや椅子、ソ

ファのほか、海外を含む新聞10紙、ホワイトボード、大型液晶テレビ、ブルーレイディスクプレイヤー、タダコピ・有料コピー機、さらには、やかに1日クッキングヒーター、掃除機まである。

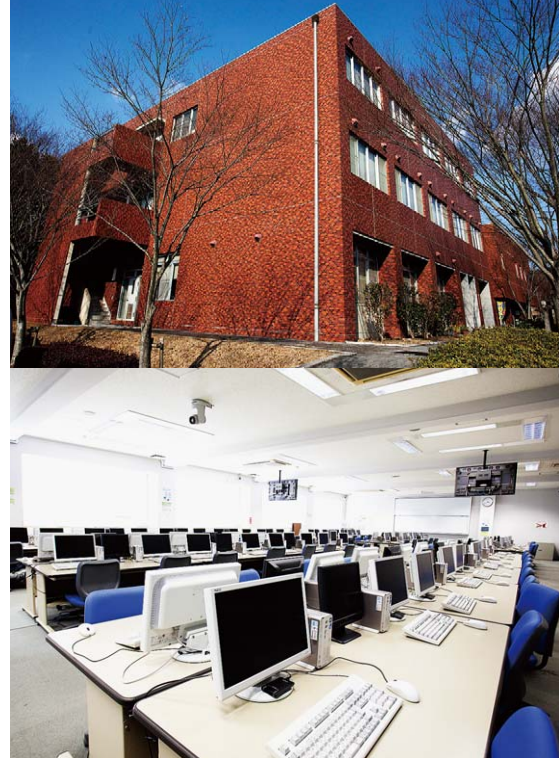
1階には総合受付があり、PAが1人配置されている。学生プラザ内だけでなく、大学での学生支援全般に

対する質問について対応し、必要に
Fフリースペースを占有利用することも可能だ。

対する質問について対応し、必要に

情報メディア教育研究センター

全学の共同利用施設として、本学の情報基盤を支え、情報メディアを活用した教育の企画・立案・実



施の支援や業務の支援、情報技術を活用するための研究開発を推進しているのが、情報メディア教育研究センターである。略称は「メディアセンター」または「IMC」となっている。東広島キャンパスに本館および分室2カ所、霞キャンパスに分室1カ所が設置されている。

広島大学に入学した学生は、アカウントとパスワードを使って、メールの送受信、端末へのログインなど、全てのサービスが利用できるようなっているが、そのアカウントを発

行・管理しているのがメディアセンターだ。ウェブ、メール、ネットワーク、教育用情報端末（ICE）の利用など、情報技術の側面から、学生の活動をサポートしている機関である。学生の情報セキュリティへの意識向上、違法行為の防止、学生として持つべき倫理観の醸成のため、全学生を対象とした「情報セキュリティ・コンプライアンス（法令・遵守）教育」を実施している。

メディアセンターが提供しているさまざまなサービスについては、ホームページで詳細を確認できる。

学生情報の森「もみじ」

2009年に、それまであった学生情報システムを更新し、新たにサービ

ス開始したのが、広島大学学生情報の森「もみじ」だ。「もみじ」は、本学の学生が大学生活を送る上で必要な情報を提供するシステムだが、これからも不断の努力でアクセシビリティを向上していくという決意のもと、「（も）もっと、（み）身近な、（じ）情報システム」の意をこめて、「もみじ」と名付けられたそう

だ。「もみじ」は、2つのシステムから構成されている。

一つは「もみじTop」。本学の学生向けの情報を集めたポータルサイトで、イベントや課外活動など、臨場感あふれる学生生活の情報を紹介している。このサイトは、広島大学の施の支援や業務の支援、情報技術を活用するための研究開発を推進しているのが、情報メディア教育研究センターである。略称は「メディアセンター」または「IMC」となっている。東広島キャンパスに本館および分室2カ所、霞キャンパスに分室1カ所が設置されている。



<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/>



もみじMOBILE
携帯電話用コード

奨学金

広島大学が取り扱っている奨学金には、日本学生支援機構（旧日本育英会）の奨学金と、民間および地方公共団体の奨学金がある。

「日本学生支援機構奨学金」

日本学生支援機構は、優れた学生で経済的理由により修学に困難がある人に対し、学資の貸与を行うことにより、国家および社会に有為な人材を育成するとともに、教育の機会均等を図ることを目的とする機関である。貸与された奨学金は、卒業後返還することになるが、返還金は後輩の奨学金として再び活用する仕組みになっている。奨学金を希望する場合は、自分の生活設計に基づき、奨学生の種類、申込み条件、返還

方法を十分考えて申し込む。修士・博士課程などに関する奨学金の概要は、次のとおり。

	第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	入学時特別増額貸与 (有利子)
修士・博士課程前期	8万8千・5万円から選択	5・8・10・13・15万円から選択（金額により採用の有利・不利はありません。）	10・20・30・40・50万円 (24年度に入学した者のみが対象で、第一種または第二種の基本月額に増額して最初の1回のみ貸与)
博士課程後期 博士医歯獣医課程	12万2千・8万円から選択		
専門職学位課程 (法務研究科)	8万8千・5万円から選択	上記のほか、15万円を選択した場合、4万円または7万円のいずれかを増額できる。	
貸与始期	4月	4～9月の間で希望する月	入学時のみ
初回振込予定日	7月11日(予定)		

※掲載している情報は、平成24年1月現在の予定であり、変更の可能性がある。

「企業系財団の奨学金」

企業系財団の奨学金には、貸与と給付の2種類があり、そのうち給付奨学金は、推薦枠が非常に限られるため、事前に学内にて、学力・人物・経済状況等をもとに選考している（留学生を除く）。募集は研究科・男女指定等もあり、その年によって異なる。

その他にも、全国に600団体以上ある各種育英団体も奨学金制度を行っているが、設立の趣旨並びに取り扱い要領（出願資格、手続き、交付方法等）は、団体によって異なる。

大学を通して募集するものは、ほとんどが4月～6月の間なので、「もみじ」（本誌29ページ）の奨学金のページや掲示などを注意して見ておきたい。奨学金希望者は、定期的に確

認しよう。

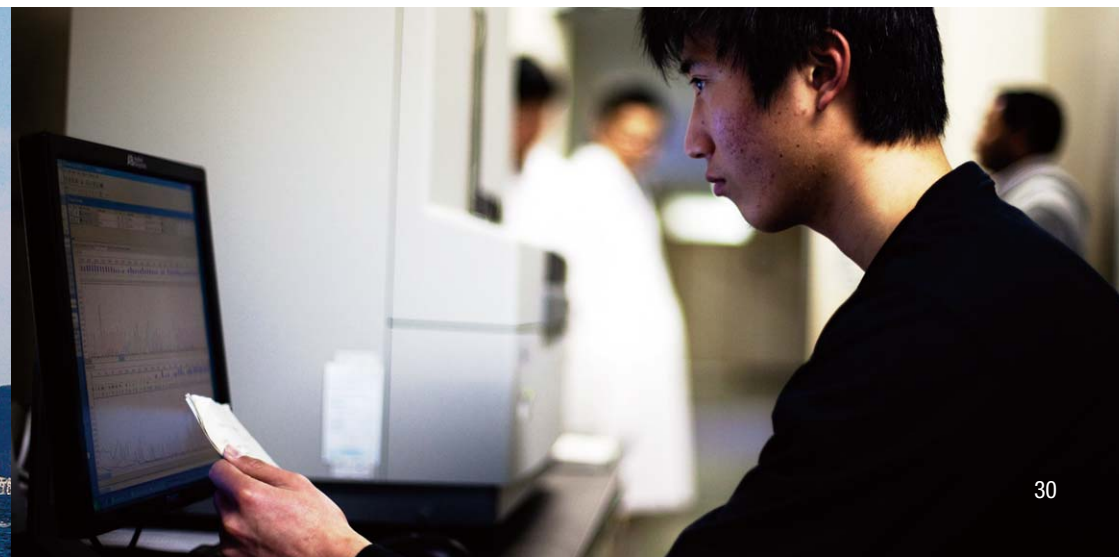
もみじTOP↓学生生活のサポート↓
経済支援↓奨学金

なお、父親など家計支持者の会社倒産、解雇、早期退職、経営不振、死亡、離別、破産、病氣、事故、災害などにより家計が急変した場合は、年間を通じていつでも申請できるので、遠慮なく相談に来てほしいと、教育室学生生活支援グループ（学生プラザ3階）の奨学金担当窓口では呼び掛けている。

授業料免除制度

授業料免除制度は、経済的な理由などにより授業料を納付することが困難な人が、所定の申請を行うことで、納付すべき授業料の全額または半額の免除を受けることができる

生物生産学部 附属練習船「豊潮丸」



制度である。

免除者の選考は、一定の学力基準を満たしている人について、予算の範囲内で、家庭の経済状況などにより困窮度の高い人から、全額免除、半額免除、不許可の順に行っている。

詳細は、「もみじ」で確認できる。

もみじTOP↓学生生活のサポート↓
経済支援↓授業料免除

学割

学割証の発行は、修学上の経済負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として実施されている制度で、帰省や就職活動などの目的で旅行（JR片道101km以上の普通乗車券に適用）する必要がある場合に限り、年間20枚を限度と

して使用できる。

次のような目的が該当する。

- ・休暇、所用による帰省
- ・実験、実習などの正課の教育活動
- ・大学が認めた特別教育活動または体育・文化に関する正課外の教育活動

・就職または進学のための受験等は体育・文化に関する正課外の教育活動

- ・就職または進学のための受験等
- ・大学が修学上適当と認めた見学または行事への参加
- ・傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理

・保護者の旅行への随行 など

なお学割証は、学生個人の自由な権利として使用することを前提としたものではないので、往復乗車券や周遊券にするなど、計画的かつ有効に使用することとなっている。

詳細は、「もみじ」で確認できる。



もみじTOP↓学生生活のサポート↓
各種案内手続↓証明書類交付手続

保険

「学生教育研究災害傷害保険」（略称Ⅱ学研災）

学研災は、講義・実験・実習・体育実技などの授業中や学校行事中、課外活動中、通学中、大学構内にいる間にけがをした場合に、治療に要した入院・通院日数により補償が受けられる保険である。

詳細は、「もみじ」で確認できる。

もみじTOP↓学生生活のサポート↓
保険↓学生教育研究災害傷害保険

「学研災付帯賠償責任保険」（略称Ⅱ学研賠・医学賠・法科賠）

この保険は、授業・学校行事・

インターンシップ・介護体験活動・教育実習・保育実習・ボランティアアクラブの活動中や、その活動のための往復途中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を壊したりしたことで発生した法律上の損害賠償を補償する保険である。

詳細は、「もみじ」で確認できる。

もみじTOP↓学生生活のサポート↓
保険↓学生教育研究災害傷害保険

「学研災付帯学生生活総合保険」（略称Ⅱ学研災付帯学総）

学研災付帯学総は、総合保険で加入は任意となっている。前述の学研災は、正課中・学校行事中・課外活動中・通学中・大学構内でのケガに限定されるが、この保険は、病気等の治療実費の支払い、保護者の救済者費用、医師による電話

相談など、学生生活をより広くカバーした補償内容となっている（学研災の補償範囲を除く）。

詳細は、「もみじ」で確認できる。

もみじTOP↓学生生活のサポート↓
保険↓学生教育研究災害傷害保険

「学生健康保険組合」

この制度は、病気やケガで健康保険適用による診療を受け、支払った自己負担金額（保険薬局での支払いがある場合は、その金額を加えたもの）の合計が、1ヵ月2422円以上の場合、自己負担金額の一部が医療給付金として給付される、広島大学の学生共済制度（原則、全員加入）である。

詳細は、「もみじ」で確認できる。

もみじTOP↓学生生活のサポート↓
保険↓学生健康保険組合

広大生の進路・就職に関するアンケートの結果 〔平成23年度〕

卒業5年目のOB・OGを対象に、教育室が実施したアンケートより、抜粋してご紹介します。

キャリア支援全般

- ・先輩の話を聞ける機会がもつとあったら良かった。
- ・研究を続ける人、社会に出る人、道はたくさんあると思うが、社会に対応していける人材づくりができるような大学、学生支援であってほしいかった。
- ・都会の学生との意識の違いがあるように感じる。
- ・進路情報の積極的な公開をするとうい。
- ・研究室の先生の支援が、もう少しあってもよかったと思う。

- ・大学内でもセミナーやリクルーター制度などをしてほしい。
- ・大学は積極的支援をする場ではなく、学生が意志を持って相談した際に、対応するものだと思っている。その点では、大学の対応はよかったと思う。
- ・大学は職業訓練の場ではないと思うが、セミナーや説明会の開催や情報収集、適性発見のサポートがあればよいと思う。
- ・学部の手口ローが受けられたら、もつとよかった。
- ・一人ひとりに応じた進路相談を行ってほしい。
- ・早期のセミナーや資格取得支援があったらよかった。
- ・進路、就職支援はかなり学生まかせの部分が多く、大学側の支援がもつとあってもよかった。
- ・就職の講義は役立った。前職は人事だったが、広大は進路についてよく教育していると思う。
- ・教育学部で教授以外の就職活動など

- の支援も、もつと充実させてほしいかった。
- ・法学部は公務員偏重から民間企業へも目を向けていかなければ、企業での評価も上がらない。
- ・地理的に不利なため、就職活動で苦労した。学生支援や大学のハード面はめぐまれていた。
- ・就活はモチベーションによって個人差がある。大学全体で危機感を学生に感じさせるような取り組みがあってもよいのでは。
- ・入学時から進路をイメージさせ、取り組ませることが大事だ。
- ・リクルーターや会社勤めの先輩の招待↓講義、意見交換会など、生の声を聴く機会が欲しい。
- ・卒業生からの声(就職先の卒業生との距離)に関して、もう少し情報が欲しかった。
- ・キャリアセンターの利用の仕方がよく分からなかった。
- ・大学内で企業説明会を開いてほしいかった。

- ・就職後に必要となるスキルや、業種の説明等をしてほしいかった。
- ・インターンシップをもつと充実させてほしい。

- 講座を受けたが、できれば大学内で受けたかった。水泳、器械体操などの体育実技をみてもらったのは助かった。

- ・大学院進学についての支援、相談をもつと充実させてほしい。(院生の話や進路を聞きたい)
- ・いつ頃から就活をはじめればいいのか、どんなサービス(マイナビなど)を利用したらいいのかなどのアドバイスや講義があった方がよかった。相談窓口や企業の紹介などとしてほしいかった。

- ・県外の情報も充実させてほしい。
- ・採用試験対策の充実が必要。
- ・教員採用試験に向けての情報提供や学習会があるとありがたい。
- ・教員採用試験の面接、討論、模擬授業対策を充実させてほしい。
- ・試験に向けての心構えなども指導してほしいかった。
- ・教育実習が試験の一カ月前にあつて大変だった。現職教員との交流機会もほしい。
- ・教員採用試験や就職の説明会・勉強会があればよかった。

教員採用試験

- ・早めのサポートが、早い活動につながると思う。
- ・インターンシップで社会経験が積めるようにしてほしい。就職活動の参考にもなると思う。
- ・社会人の修士・博士取得希望者を支援してほしい。

- ・画一的なアドバイスでなく、それぞれのケースに合った柔軟なアドバイスをしてほしい。
- ・教授による一年ごとの持ち回りではなく、就職専門のガイダンスがで

- る、情報を集めている専門職員が必要だと思う。
- ・視覚に障害があつたので、ボランティア活動室(現・アクセシビリティセンター)にはお世話になった。今はメンタル面・就学面など相談窓口の充実が必要だと思う。就職については、日本の構造的な問題もあるので、ある程度のサポート(それも早い段階の)が必要。

博士課程後期学生をサポートしていただきます

あなたのご意見・ご要望をお聞かせください。

「連絡先」若手研究人材養成センター(濱崎)

✉ wakateyuser@office.hiroshima-u.ac.jp



広島大学若手研究人材養成センター

〒739-8524 広島県東広島市鏡山一丁目1番1号

TEL 082-424-6213

2012年3月発行



ミックス
責任ある水産資源を
使用した紙
FSC® C016467